

廃校からのリスタート



旧校舎を活用した多機能型事業所「いっぽ」では、障害のある子どもたちを受け入れている



イベントを主催するのは同市のNPO法人「水梨かふえ」。旧校舎を活用し、障害児支援など五つの事業を手がける多機能型事業所「いっぽ」も運営する。団体の活動は、地区に住む理事長秋山順子さん(68)の問いが原点にあった。



水梨キッズかふえで参加者と交流する秋山さん(右から3人目)＝昨年12月、気仙沼市の旧水梨小

木のぬくもりがあふれる学びには、今も変わらず子どもたちの声が響く。
熱々を頼張る

小さな幸せ 紡ぐ拠点に

④ 旧水梨小(気仙沼) 住民の結び付き育む

2019年3月に閉校となった気仙沼市の旧水梨小で、昨年12月21日にあった「水梨キッズかふえ」。市を中心に親子連れ約70人が集まり、体育館で正月飾「ぼっばのはつと汁」を提

「地域で暮らしながら、どうしたらいいんだろう」。健康寿命を伸ばすためには、秋山さんは気仙沼市立病院

の看護師として約40年間勤務した。58歳だった10年前、2年後に定年退職を控え、思いを巡らせた。

現に動き出した。月1回のイベント運営には、陽だまりかふえの参加者やボランティアとして気仙沼向洋高の生徒も携わる。お年寄りや高校生が親子連れに声をかけたり、見

「地域で暮らしながら、どうしたらいいんだろう」。健康寿命を伸ばすためには、秋山さんは気仙沼市立病院の看護師として約40年間勤務した。58歳だった10年前、2年後に定年退職を控え、思いを巡らせた。在職中の15年、地区の高齢者が親睦を深める「お茶っこ飲み」を始めた。集会所には毎回、60、90代の15人が参加。企画は好評で、現在も「陽だまりかふえ」として毎月開催する。

頼り頼られて

地区では当時、小学校の廃校問題が浮上り、存続を求める運動も起きていた。市の方針は変わらず、18年から跡地利用などの議論が本格化した。「それなら、学校に子どもたちを集めよう」。秋山さんは地域住民と共に、キッズかふえの実

メモ

水梨地区はツツジの名所。徳仙文山の麓に位置し、約300世帯が暮らす。多機能型事業所「いっぽ」は、障害児の放課後等デイサービス、生活介護など五つの事業を展開。学校敷地内では現在、障害者向けグループホームの建設が進められている。

(藤井かをり)